

★今週の聖句

「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」
マルコによる福音書 6:4

★ねらい

- ・見た目や関係性にとらわれずに「(神様の目から見て)良い」ものを素直に「良い」と言える心を持つ。

★ 説教作成のヒント

- ・ 故郷の人々はイエスの兄弟を知っていたが、自分たちと同じただの人間にすぎないととらえ、神の子として受け入れなかった。
- ・ イエスさまの教えやみ業の源に目を向ける。

★ 豆知識

- ・ これまでイエスさまの活動の中心はガリラヤ湖周辺であった。この箇所は故郷ナザレに戻った場面である。直前の箇所は「信仰」が強調され、この位置では「不信仰」が強調されている。
- ・ イエスさまに対する家族の無理解はマルコ3章20節以下に記されている。
- ・ 2節「イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った」の「驚く」は、特にイエスの振舞いや教えや奇蹟が引き起こす驚きを表している。

★説教

みなさんに兄弟はいますか？年の近いところでもいいですよ、昔一緒にあそんだことがあるとか、もちろん今でも一緒に遊んでいる親戚でもいいですよ。

そう、みなさん大体一人か二人はいますね。

では20年後、もし自分の兄弟や親戚が総理大臣になってたらどうでしょう？ちょっとうらやましいなあとか、あいつに本当にできるのかなあ？とか思ったりしませんか？

私たちの中には、自分が知っている人が偉くなったり、お金持ちになったり、立派になったりすると、半分は嬉しいのですが、半分はうらやましい気持ちになる人がいます。

もしかすると、イエス様の親戚の人たちもそうだったかもしれません。イエス様の時代は特に、大工の子が聖書の先生になることなんてできませんでした。だからイエス様が立派になって、すばらしい聖書のお話をする姿を見て、嬉しくなる気持ちと、うらやましくなる気持ちが入り混じって、あんまり歓迎する雰囲気にならなかったのかもしれない。

少し視点を変えてみると、もしみなさんが普段ばかにしているお友達がいたとして、そのお友達が、自分ができなかった問題に正解したり、自分も思っていたけど言えなかった正しい意見を言ったとしたら、どうですか？そのお友達の正解や正しい意見を素直に喜べるでしょうか？何で自分ができなかったのに、あいつは出来たんだ！自分も言おうと思っていたのに…、なんて気持ちにならないでしょうか？

もしみなさんのそんな姿をイエス様が見ると、イエス様はきっと「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われるでしょう。

そうなんです、イエス様は、その人が誰であれ、それが正しい行為であり、正しい発言であったなら、その行為や発言を素直に受け止め、そして喜びなさいと言っているのです。神様の目から見て「良し」とされる行為や言葉は、「良いもの」としてそれらを受け入れなさいとおっしゃっているのです。

みなさんもどうか、その人の外見や、また普段の自分との関係にとらわれずに、「良い」ものを「良い」といえる心を持ってください。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

60番

改訂版32番

やってみよう

☆日影と日向で見え方を較べてみよう。

（雨や曇りの時は、暗い部屋と明るい部屋でくらべてみる）

<用意するもの>

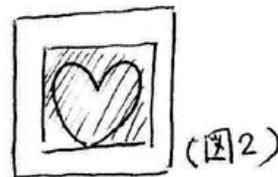
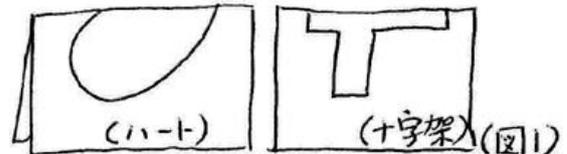
- ・黒い画用紙
- ・セロファン（赤・黄などの明るい色）

①黒い画用紙を二つ折りにする

（図1）のようにハート形や十字架の形になるように線を書き、それを切り抜く。

②切り抜いた所にセロファンを貼る（図2）。

③光のある所で白い壁などにこのセロファンの部分の影を写してみよう。



*暗い所（日影）では、どんな風に写るかな？

光のある所に立つと影はあざやかに色の影が見

え、暗い所に立つとあまり色が見えない事に気づく。

はなそう

私達も神様の光の中に立っていると喜びがある。日曜日礼拝するという事もそうかもしれない。教会に来ていて神様から力をもたらっているとを感じる事があるかな？

イエスさまが故郷を離れて旅をなさった所を地図で見よう。ヨルダン川、ガリラヤ湖、ベトサイダ、ティルス、シドン、フィリポカイサリア、カファルナウム e t c

★今週の聖句

「十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。」

マルコによる福音書 6:12

★ねらい

- ・一人では弱くとも、二人いることによって人は強められることを知る。
- ・神さまを信じ、従うことが厳しい時もあるが、神さまは必ず力を与えてくださることを知る。

★説教作成のヒント

- ・自分たちにとって「旅」とは何かを考え、弟子たちの「旅」と比べてみる。
- ・イエス様のご用のために歩む「道」は決して簡単なものではないが、そのために与えてくださるイエス様の恵みを考える。

★豆知識

- ・二人が一組になって行動するのはユダヤの習慣であった。
- ・「杖」は野獣を撃退するために用いられた。ここでは旅をする際の危険防止のための杖である。
- ・巡回伝道者から教えを聞く者が、伝道者のために宿泊や必要なものを準備するのが当時の習慣。より良い待遇で迎える家があっても、そちらに移るような事はしてはならないとイエスは命令した。
- ・ユダヤ人が外国旅行をしてパレスチナに帰った時、異教の汚れを聖なる地に入れないうために国境で足の埃を払う習慣があった。福音の宣教を拒否する者たちにも同様に「足の裏の埃を払い落とす」(11節)という象徴的な行為をイエスは命令された。
- ・13節「油」は古代には医薬品として用いられた(イザヤ1:6)、弟子たちは油を塗って病人をいやした。

★説教

イエス様には12人のお弟子さんがいました。そして彼らを二人一組にして、世の人々が神さまに目と心を向けて生きるよう、悔い改めさせるために宣教の旅へと遣わしました。ではここで問題です、彼らは何を持って行くことがゆるされたのでしょうか？

そうですね、杖が一本、履物、「下着は二枚着てはならない」と書いてあるので、替えの下着もなかったかもしれません。下着の替えもなかったぐらいですから、上着の替えもなかったでしょう。そうです、以上、たったこれだけです。旅は何日間でしょうか？1日や2日ではなかったでしょう、1週間位でしょうか？

みなさんだったらどうですか？1週間の旅をするとき、みなさんは何がどれ位必要ですか(時間があれば、書き出してみる)？人が旅行するときは、こんなにたくさんの荷物が必要なんですね。

では、イエス様が言った杖と履物だけで、みなさんは旅行ができますか？難しいですね、でもお弟子さんたちは出来ました、そして無事に帰ってきたことが6章30節に書いてあります。

おなかが減ったり、病気になったりして旅が出来なくなった人は一人いませんでした。なぜ無事に帰ってこれたのでしょうか？

みなさん、想像してみてください。自分たちが杖と履物だけで、それ以外の食料や着替え、お金などは持たずにどうやって旅を続けますか？途中でくじけたりしませんか？どうやってご飯を食べたり、寝るところを見つけたりしますか？

そう、ここに二人一組という理由があるんだと思います。イエス様は決して一人きりでは旅をさせ

ませんでした。くじけそうなときに励ましあうことができるように、一人が倒れても一人が助けを呼びに行けるように、アイデアを出し合うことができるように、イエス様は二人一組で旅をさせたのです。

もう一つ理由があります。それは「汚れた霊に対する権能を授け」ことです。この力は弟子たちの力ではなく神さまの力です。きっと遣わされた弟子たちと出会った人々は、この神さまの力に驚き、そして悔い改め、神さまに感謝したんだと思います。そして神さまの力や、神さまのメッセージを運んできた弟子たちに食べ物や寝床をあげたり、寝床をかしてあげたんだと思います。

イエス様を信じることや、イエス様のことを他の人たちに伝えることは、とても勇気がいることですし、そして難しいことかもしれません。しかし、イエス様は決してそんな私たちを一人にはしておかれません。仲間をあたえ、厳しくてもやりとげる力を与えてくれます。助け合う気持ちを忘れずに、これからもイエス様を信じ、そして伝えていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 36番

□ 改訂版 120番

やってみよう

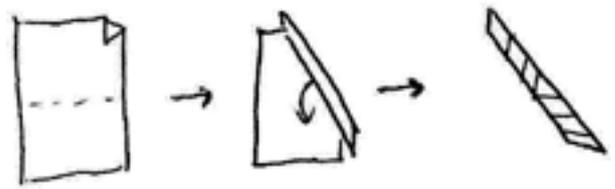
☆つえを作ってみよう

<準備するもの>

- ・新聞紙2枚ずつ人数分
- ・セロテープ
- ・縦に4等分した折り紙（1人1/4枚ずつ）
- ・のり



- ①新聞紙2枚を重ねて広げる。
- ②角を少し下り、そのままくるくる巻き、棒状にする（図1）



端をセロテープで止める。

- ③棒の先を少し曲げ、つえの形にする（図2）
- ④たんざく状の折り紙に「神さま」と書く。
（字が書けない場合は十字架を描く）
- ⑤その紙をのりでつえに貼る。

（図1）



はなそう

- あなたなら旅に出る時、何を持って行くでしょうか？
- つえ一本しか持って行ってはいけないと言われたらどう思うかな？
- この言葉の通りに出かけて行った弟子達が多くの人に宣教出来たのはどうしてかな？

★今週の聖句

「パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。」
マルコによる福音書 6:43

★ねらい

- ・心と体の満腹について考えてみる。
- ・イエス様が必要な「糧」を与えてくださることを信じる。

★説教作成のヒント

- ・弟子たちが初めての宣教体験を報告した直後のことである。杖1本の他は何も持たない旅で、神の支配を身をもって知る旅であった。イエスは疲れて帰った弟子たちに休息を取らせる。
- ・そこへ群衆が殺到した。群衆は疲れた弟子たちに遠慮するゆとりもない、困窮状態であった。イエスは生きる糧を求める群衆に心を向けた。
- ・イエスの心が非情に激しく揺さぶられた。これだけ大勢の群衆をイエスが奇蹟をもって豊かに養ってくれた。残り物が溢れるほどに残った。

★豆知識

- ・1デナリオンは当時の一日分の賃金。ここでは200日分の賃金に相当する金額である。
- ・旧約聖書ではエリシャがわずかなパンと穀物で百人を満腹させた(列王記下4章42節以下)。しかしイエスの奇蹟はけたはずれに大きい。
- ・「十二の籠いっぱいになった」の十二は「完全数」を表す象徴的な数字である。あふれるほどに残ったことを示す。
- ・「男が5千人であった」は、女性や子どもを無視したのではなく群衆の数の大きさを強調している。

★説教

どうしておなかがへるのかな けんかをするとなるのかな なかよししてもへるもんな
かあちゃん かあちゃん おなかとせなかがくつつくぞ
どうしておなかがへるのかな おやつをたべないとへるのかな いくらたべてもへるもんな
かあちゃん かあちゃん おなかとせなかがくつつくぞ

みなさんはこの歌を知っていますか？そうですね、どこかで聴いたことがありますね。
では、みなさんはどう思いますか？どうしてお腹はへるんですか？(みんなの声をきく)そうですね、
色々な理由があると思います。ではみなさん、こんどは逆の質問です。どうすればお腹は満腹しますか？
(みんなの声をきく)そうですね、これもまた色々な理由がありますね。

でもみなさん、お腹いっぱい食べたら必ず満腹しますか？たった一人でご飯をお腹いっぱい食べるのと、みんなでわいわい楽しくご飯をお腹いっぱい食べるのと、どちらがたくさん食べられますか？
嫌いなものでもたくさん食べたら満腹しますか？同じものばかりでも？もしかすると、お腹いっぱいになると、満腹するのは同じところもたくさんあるけど、違うところも少しあるのかもしれないね。

今日読んだ聖書に登場した5千人の人たちは、お腹いっぱいになったでしょうか？満腹したでしょうか？
きっとお腹もいっぱいになって、満腹もしたんだと思います。

それはイエス様が5千人の人たちに必要なものをよくわかっていたからです。確かに時間もだいぶたってお腹が減っている人もいたでしょう、そしてその人たちがたくさん食べて、パンくずと魚の

残りが12のかごにいっぱいになったとあるので、彼らのお腹はいっぱいになりました。そして彼らはお腹がいっぱいになるだけではなく、彼らの心もいっぱいになったと思います。何故なら、彼らははじめ、イエス様の目から見て、飼い主のいない羊のような有様だったのです。そして、イエス様がそんな彼らを深く憐れみ、5つのパンと二匹の魚を、天を仰いで賛美の祈りを唱え、イエス様の手でそれを裂き、弟子たちを通して人々に分け与えたのです。一人ひとりに必要なお腹を満腹させるパンや魚を、その心に必要な祈りを、イエス様は与えてくださったのです。

イエス様は私たちに必要なものも良くご存知です。私たちは自分自身に必要なものをわかっているでしょうか？自分のまわりにお友達や、世界の人々に必要なものをわかっているでしょうか？一緒に考え、そして必ずそれが与えられることを信じ、またそれらが人々に与えられるとき、イエス様のお弟子さんたちのように、そのお手伝い出来るような人になりたいものです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

104番

改訂版21番

やってみよう

☆魚2ひきと5つのパンを作って分けよう

<用意するもの> ・画用紙 ・ハサミ ・クレヨン

①画用紙を2つ折りにして右図のような線を描き、折ったまま、線のとおり

に切る。開くとパン、魚の形になる(図)。
②時間があれば、魚に模様を描いたり、パンに色をつける。



☆作ったパンと魚を配る

<用意するもの>

- ・入れ物（カゴ、箱など）人数分
- ・ビニール袋 12枚×グループ分

①5・6人ずつグループになる。

②それぞれ各自入れ物を持つ。

③グループで1人ずつ自分の作った魚とパンを切り分け、グループ内の人の入れ物に配っていく。

④全員が分けて配ったら、それを一ヶ所に集めて山にする。

⑤集まった魚とパンのかけらを12枚のビニール袋に分けて入れる。

はなそう

「パンは幾つあるか見てきなさい」と弟子達に確かめに行かせたのはなぜだろう。

自分の持ち物をさし出すという事、分けてあげるという事を体験して、どんなことを思ったかな？話してみよう。

★今週の聖句

「安心なさい。わたしだ。恐れることはない。」

マルコによる福音書 6:50

★ねらい

- ・イエス様は、いつも、どんな時も、わたしたちを励まし守ってくださるということを伝える。

★説教作成のヒント

- ・弟子たちにとってガリラヤ湖は知り尽くした場所であり、突風の時にどうすればよいかは心得ていた。しかし、時に経験を越え、知識も及ばない出来事が襲う。弟子たちの視野にイエスのお姿は入らず、海の嵐しか目に入らない。
- ・弟子たちの状況を自分たちの状況に置き換えて考えてみる。

★豆知識

- ・45節、「ベトサイダ」は、ガリラヤ湖の北側の岸、ヨルダン川がガリラヤ湖に注ぐ河口の東側にある町。そこはペトロ、アンデレ、フィリポの出身地であった（ヨハネ1章44節）。
- ・46節、「祈るために山へ行かれた」は、イエスが祈ることに専念するために山に登った事を表す。
- ・48節、「夜が明けるころ」は、「第四夜回りのころ」。「夜回り」はローマ軍の夜警のための時間の数え方。午後6時から翌朝の6時までを4等分し、四交代で見張りをしており、第四夜回りのころとは午前3時から6時までの時間帯。
- ・48節、「通り過ぎる」は神様がここにおられることを表現している（出エジプト33章21?23節）。神様はモーセに後ろ姿をお見せになるかたちで表れてくださり、モーセをほったらかしにされたわけではない。

★説教

幽霊が好きな人はいますか？ うーん、それは珍しいですね、先生は幽霊は嫌いです、怖いんです。他の人はどうですか？ やっぱり怖いという人の方が多いのではないのでしょうか？

そう、今日の聖書に出てきたお弟子さんたちも一緒でした。湖の上を歩いておられるイエス様を見て怖くなって大声で叫んだんです。

さあ、ここで質問！ お弟子さんたちは何と言って叫んだのでしょうか？ そうですね、正解はわかりませんが、もしかすると「出たあ〜！」だったかもしれませんね。

では、何で幽霊って怖いんでしょうか？ 見たことないからですか？ 襲われるから？ 何ででしょうね？ でも、見たことなかったら、それが幽霊って何でわかるんでしょうか？ なるほど、足がなかったり、この世のものとは思えないようなものだったり、あるはずのないものだったりするから怖いんでしょうね。イエス様を見たお弟子さんたちも、歩けるはずもない湖の上を歩いている人がいるから、きっと幽霊だと思ったんでしょうね。

さて、幽霊と見間違えるイエス様と出会う前、お弟子さんたちはイエス様とはなれて舟に乗っていました。彼らの中にはもと猟師のお弟子さんもいて舟の扱いには慣れているはずですが、この時は逆風にこぎ悩んでいたそうです。目的の場所があるのに、そこにつくことが出来ない、どんなに漕いでも前に進まない、何をやってもうまくいかない、そんな状態でしょうか？

そんな彼らを見るに見かねてか、イエス様は湖を歩いて彼らのところにやってきたのです。にも

かかわらず、彼らはそのイエス様を見て幽霊だと思ってしまったのです。イエス様にしてみれば踏んだりけったりのような出来事ですが、それでもイエス様はお弟子さんたちをしかるのではなく「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」と言われました。

何をやってもうまくいかない彼らはきっと不安で不安でしかたなかったでしょう。幽霊と出会うという、今までに見たこともないようなびっくりする出来事を前に、彼らは怖くて怖くてしかたなかったでしょう。そんな不安な彼らにイエス様は「安心なさい」と言われ、幽霊を見たのと怖がっている彼らに「私だ」と言われるのです。

どうかこのイエス様の言葉を忘れないでください。たとえもし、何をやってもうまくいかないときがあっても、たとえもし、今までに見たこともないような出来事とであったとしても、イエス様はそんな私たちに、安心と、励ましを与えてくださるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 1 2 3 番

□ 改訂版 5 4 番

やってみよう

☆舟を作って寸劇をしてみよう

<用意するもの>

・大きめのダンボール 3 コ ・ガムテープ

①ダンボールの上下のフタ部分を中心に折り込み、ガムテープで止める (図)



② 3 コのダンボールをつなげて舟にする (図3)。

中に入って座れるようなスペースがある方が良い。

*舟を作る時間がない場合は、フラフープや座布団などで舟の形にみたてる。

<寸劇>

(役) 弟子 3 人、イエスさま、ナレーター

ナレーター：イエスさまは弟子たちに舟に乗ってガリラヤ湖を渡るように言いました。

イエス：私はあとから行きます。先にベトサイダに行っていなさい。

弟子①：(不安そうに) わたしたちだけでですか？・・・わかりました。

(弟子 3 人は舟に乗り込む)

弟子②：なんだか空が暗くなってきたね。

弟子③：風も出て来たよ。こわいなあ・・・

(舟がゆれはじめて 3 人でこわがる)

(イエスさまが舟の横を通りすぎる)

弟子①②③：うわあ水の上を歩いている。ぼうれいだ～こわいよ～たすけて～

(イエスさまが戻って来て)

イエス：しっかりしなさい。わたしだ、安心しなさい。恐がることはない。

(イエスさまが舟に乗り込む)

ナレーター：イエスさまが舟に乗ると風は静まりました。弟子たちはとても驚きましたが、どうしてそんな事がおきたのかわかりませんでした。

はなそう

弟子たちはなぜイエスさまを見てこわがったのでしょうか。

わたしたちもこわがったり恐れたりする事がありますね。そんな時の事を話してみましよう。その時どうしたかな？